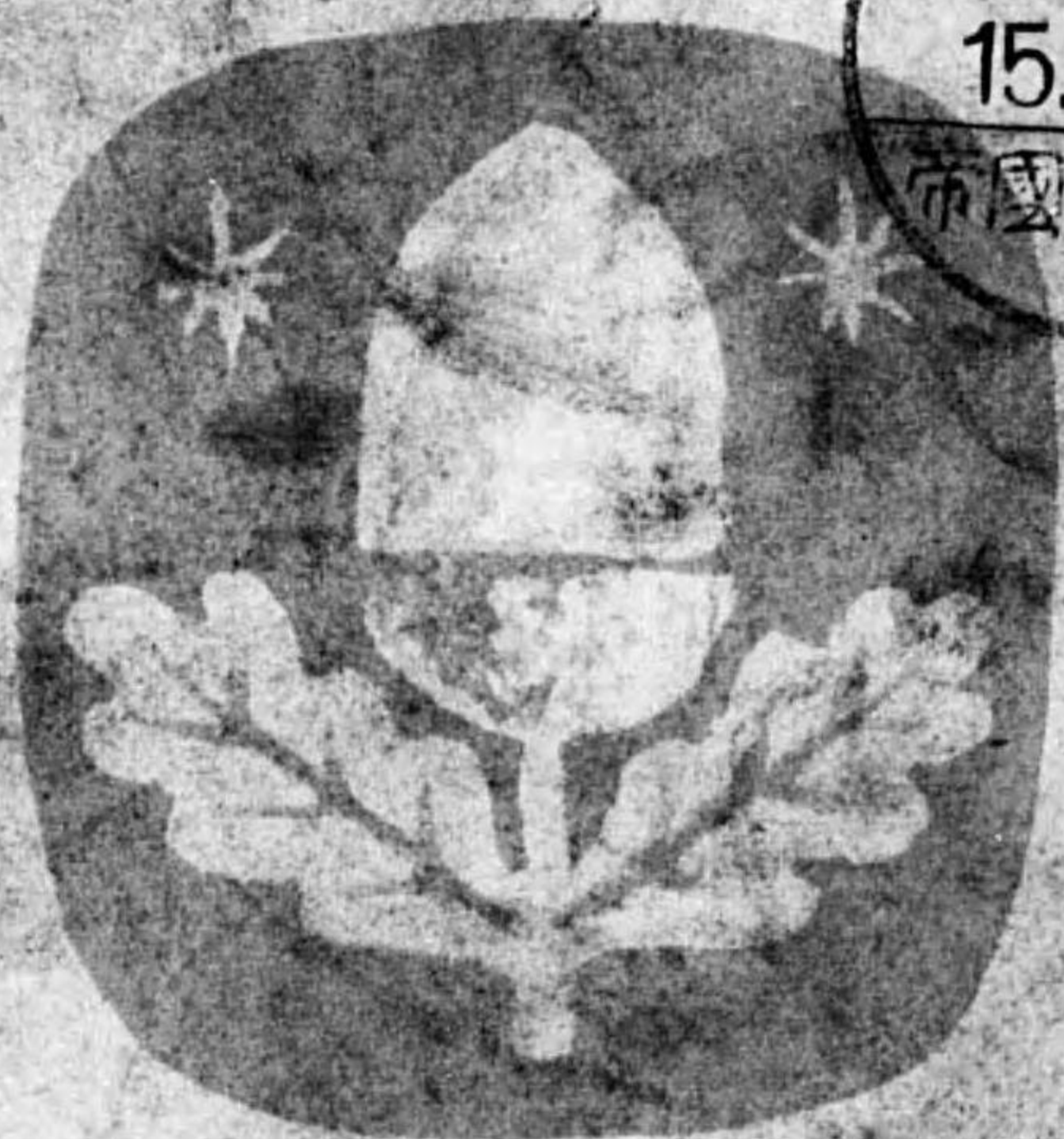


トツレフンバ育教

養教の民國大と局時

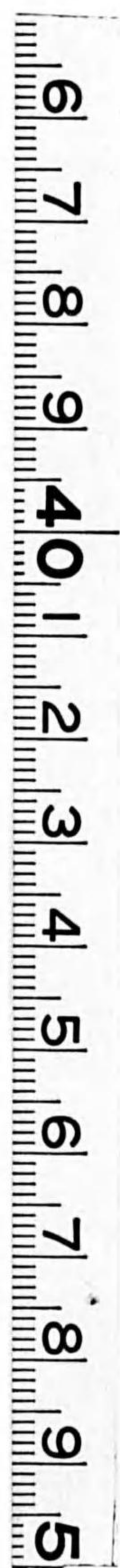


購入
15.5.2
帝國圖書

號日十二月五

人法團財
會協育教會社

71



始



トツレフンパ育教



輯六十七百三第

人法團財
會協育教會社

目次

時局と大國民の教養……………貴族院議員 田澤義鋪(二)

はしがき——事變は何故長びくか——歐洲戰爭と我國——歐洲人の戰爭心理——

支那とソ聯——支那事變の現段階——事變克服の根本條件——時代精神の認識

聖戰の眞義徹底を期せ……………(四)

編輯後記……………(四)

時局と大國民の教養

貴族院議員 田澤義鋪

はしがき

今日の時局が重大であり、深刻であることは誰しも申す所であります。明治以來我々は度々戦争にも遭遇し、事件にも出會はして居るのでありますが、今度の事變のやうに重大であり、深刻であることは先づ經驗したことがない。時間の關係から申しましても、日清戦争は明治二十七年、二十八年に跨つて居りますが、満で言へば一年をこく。日露戦争は三十七年の二月に始まつて三十八年の八月に終つて居る。満で言へば一年七箇月。世界戦争は、世界戦争自體としては

非常に長期に亙つて居りますけれども、日本が第一線的の戦に参加して居つたのは膠州灣の占領の極く短日月であります。勿論海軍には其の後引續き随分御苦勞して貰つたのでありますけれども、併し是は自ら又第一線の主役としての立場とは異つて居つた。

然るに今度は御承知の通り既に四年目になつて居る。満で言つても二年八箇月、而してまだ何時濟むかとも分らない。時間の關係から言つても斯の如く、今迄の事變や戦争よりも非常に長く掛る厄介な事變であるのであります。其の上に國際關係の日本に不利なること、或は財政經濟の影響、さう云ふことを段々觀察して見ますと、未だ嘗て經驗したことのない程の重大さと深刻さとを持つて居るのであります。

事變は何故長びくか

なぜ一體そんなことになつたのか。第一に擧げたいことは支那は非常に土地が廣い。奥地に逃げ込まれればどうにもならぬ。無論追掛けて行つて戦争して勝てぬ譯はありませんが、其の途中の治安を全くして、後方との連絡を断たれぬやうにするには非常に兵數を要する。是には我が日

本の現在の人口を以ては容易なものではない。飛行機の爆撃、是は行つて歸つて來なければならぬし、敵の軍事施設の破壊には効果があるけれども、根柢から敵を戦へなくして、遂に城下の誓を爲さしめる迄には現在の飛行機では手間が掛ると云ふよりも出來ないかも知れない。斯う云ふことが一つの原因でありませう。今一つの原因は支那の近代國家としての經濟機構がまだ十分に高度化して居ない。それで此處こそ敵の中心であらう、心臓部であらうと云ふので、さう云ふ地點を攻略しても、尙且つ地方々々で餘喘を保つことが出来る。此の二つの原因が確かに事變が長く掛かる原因として數へ得ると思ふのであります。

併しながら、それならば日清戦争の時だつてさうなんである。何故今度だけは斯の如く重大であり深刻であるのか。それには主たる原因が外にあることを想像されるのであります。

それは所謂抗日精神が支那の上下に徹底して居ることでありませう。支那の政治家は支那を近代國家として建設して行く爲に、何か一つの外敵の目標、それに打勝たなければならぬと云ふことで國民の精神を鼓舞し、國民意識を昂揚させる、それ以外に支那を近代國家に仕上げる途はないと考へたらしいのです。

日本が支那より歐米と交つたことが遅いにも拘らず、どん／＼國力を展べて行く。是ではならぬと云ふので支那の政治家は支那をして近代國家たらしむる爲大に努力しようとしたが、扱て國民の政治意識、國家意識が之に伴はない。それで何とかして此の近代國家の基礎となるべき國民意識と云ふものを植付けざる爲には、一つ日本を目標にして、日本に負けないやうにしよう。彼等に言はしむるならば、臺灣も朝鮮も滿洲も日本に取られたのだ。之に復讐しなければならぬと云ふので、之を煽ることが支那を近代國家に高める基調精神であると云ふので、今日迄彼等は努力して來たやうである。此の抗日精神が上下の間に相當徹底化して居る。此の排日が如何に根強いか就て、此の間も支那に行つて歸つた人の話を聞きますと、北京、上海、南京が占領される。さうすると北京や南京や上海の大學に籍を置いて居つた學生達が奥地に逃げて行く。教授に率ゐられて奥地に行く時の状況と云ふものは、交通機關は或は破壊されなくてもなか／＼使はれない。それで四百餘州のあの廣い所を學生が重慶迄、昆明迄歩いて行く。其の途中斯の如き辛酸を嘗めるのは、矢張り日本侵略の爲であると云ふやうなことで排日の思想を繰返しつつ、尙ほ學生のことでもありますから學業にいそしむことを忘れない。地質の研究をする者は地質を、動植物の

研究をする者は動植物、産業經濟の研究をする者は産業經濟の研究をしながら幾日となく掛つて奥地迄徒歩で歩いて行つた。さう云ふ事實を聞いてみますと、此の抗日排日の精神がどの位の深さを持つて居るか。將來に向つてどの位の作用を爲すかと云ふことを餘程深く考へて置かなければならぬことだと思ふのであります。勿論、最近に成立した汪精衛氏の中央政權、汪精衛氏の如く此のアジアの大悲劇を少しでも早く轉換して、さうして日支共存共榮、互に手を結んで提携して行かなければならぬと、大局に醒めた人達も相當ありますけれども、まだ／＼其の數はなかなか少い。日本としては何處迄も之を支持し、援助して行かなければならぬが、將來本當に之を支那の實力ある眞の中央政權に仕上げる迄には、相當の困難を伴ふと云ふことを覺悟しなければならぬ。もうあの政權が出来たから後は向ふでやるなどとは思へない。其の治安の維持もこつちでやつてやらなければならぬ。まだ／＼抗日排日の精神に凝り固つて居る連中が決して拗くないのであります。どうしてもこれが事變の深刻になる主たる原因であると思はれます。

更にこれに附隨して、如何に排日抗日と雖も前途に光明がなければ、希望がなければ彼等と雖もさう奮起する譯がない。所が其の點に於て二つの希望らしいものを彼等は認めて居るのであ

る。第一は國際關係が日本に不利であつて支那に有利である。これを彼等は深く希望の一つとしてゐる。此の考へ方はヨーロッパ戦争の始まりました時稍と動搖を來たしましたけれども、その後又希望を繋ぐに至つて居るらしい。何れヨーロッパの戦争でも濟めば國際會議になるであらう。その時には、支那に同情する國が多いから、何とかして支那に有利な結末を得たいものだ。此の希望を相變らず捨てゝゐない。もう一つの希望は、日本は軍隊は實に強い。けれども經濟には一つの弱點を持つて居る。それは何かと云ふと資材、物資の缺乏と云ふ一つの弱點を持つて居る。鐵も石油も足りない。錫も鉛もアルミニウムも銅も足りない。ゴムも日本には一つも出來ない。軍需資材で日本に足りないものが實に多い。そこで戦争には強いけれども資材の缺乏の爲に、いつかは日本は尻古垂れるのだ。そこで蔣介石は部下の軍隊に訓示をして、日本軍と戦ふ目的は、現段階に於ける戦ひの目的は日本軍に打勝つことではない。日本軍に武器彈藥、諸材を消費せしむる消耗戦なんだ。出来るだけ日本軍隊をして資材を消耗せしめなければならぬ。それには餘り早く退却してはならぬ。併し結局は敗けるのだから最後には退却して宜しい。其の代り退却する時は村を焼き町を焼いて一物も残さないやうにしなければならぬ。日本軍が占領しても何

もないやうにする。食糧は固より各種の資材悉く内地から輸送して來なければならぬ。さうすれば内地に物が足りなくなるから、いつかは尻古垂れる。かう云ふことを堂々と訓示して居るやうな次第で、茲に彼等は一つの希望を繋いで居るのであります。

歐洲戦争と我國

さう云ふ五つばかりの原因を擧げたのでありますが、是等の原因が互に幅濫して今日の時局を極めて重大にし、極めて深刻にして居るのであります。これに對して我が日本側は、成る程なかなか困難であるけれども、今度ヨーロッパ戦争が起つたからこれで一息つけるのだ、と云ふやうな感じを持つて居る人もあるやうに思へるのであります。ところがこれはどうも餘り頼みにならない。第一は經濟的に考へて見まして、ヨーロッパ戦争が日本に有利であるか、或は有利でないか。此の前のヨーロッパ戦争の時は日本の生産設備は寧ろ遊んでをつた。日本の勞働力も過剰であつた。必要とあれば何でも供給出来る。物資も豊富である。さう云ふ場合のあのヨーロッパ戦争である。今度はさうじゃない。日本は此の事變に依つて資材は非常に缺乏してゐる。日本の生

産設備は充分に使はれて餘力がない。勞力も亦實に餘裕がない。さう云ふ時に起つたのだから、向ふで如何に品物が欲しいと言つてもこちらから賣る譯に行かない。輸出を刺戟すると云ふ有利な原因となることは出来ない。幾分は増加してゐますがたいしたことはない。所が不利な現象はなかく著しい。それは何かと言ひますと、先程申しました通りに、支那の次の事態に備へる爲に日本は國防充實をしなければならぬ。さう云ふことの爲には軍需資材の輸入に努めなければならぬことは勿論である。鐵、石油、その他非鐵金屬、色々の物の輸入の方法を講じなければならぬ。所がヨーロッパ戦争が始まつて、ヨーロッパに於てさう云ふ軍需資材が非常に必要になつて來た。そこで輸入しようにもしくゝなつた。少くとも非常に價格が騰貴した。ヨーロッパの方から買付ける爲に非常に値段が高くなつて、さなきだに外貨の獲得に苦んでゐる日本が、澤山の現金を積まなければ買へないと云ふことになつて來た。是は日本の國防經濟、時局經濟にとつての大打撃であります。さう云ふ風に考へますと、此のヨーロッパ戦争は經濟的には幾分の利益になる點もあるが、不利になる點が多い。政治的に考へると、どう云ふ風になるかと申しますと、是は確かに外交的にヨーロッパの時局を利用して、東洋の事態を收拾するに便ならしむると云ふ

ことはあり得るが、併しながら是は爲し得るであらうと云ふのであつて、これを實現することは矢張り容易なことではない。

歐洲人の戦争心理

ヨーロッパ人は此の前の戦争の慘害にもう懲々して居るのであります。まあ年齢三十五歳位の人を區域として、其の以下の人々は、此の前の戦争の慘澹たる憶ひ出が殆どないと言つても宜い併し三十五歳以上の年齢の人はいくゝと此の前の戦争の慘澹たる状態を記憶して居るのであります。それでさう云ふ人々は戦争と云ふことを出来るだけ避けたいと考へて、もう戦争と云ふもの程嫌なものはないと思つて居るらしいのであります。

この前のヨーロッパ戦争が、どの位の慘害をヨーロッパに與へて居るかと云ふやうなことは、今更此處で申上げる必要もないと思ひますが、ほんの一例だけ申上げて御想像を願つて置きたいと思ひますが、例へばドイツ一國だけの戦死者が二百五萬人、それに食糧缺乏の爲に死なざるを得なかつた者が七十萬人もある。此の數字だけでも御想像が付くと思ひます。さうして若い者は

戦争に行つてゐる。軍需工場に行つて働いてゐる。家を守る者は年寄夫婦である。主婦である。さう云ふ場合食糧制限下で切符制度で御飯を喰べてゐる。主婦は學校に通つてゐるやうないたいけな子供達には、例へ自分は喰べなくても喰はしてやりたいのは親の人情、又お爺さんやお婆さんの老先短い人達に御飯を少しにして呉れと云ふことは出来ない。大抵食糧を制限するのは母親である。自分の分は子供やお爺さんやお婆さんに出来るだけ分けてやる。其の母親が乳呑子を持つて居る場合には遂に乳が出ませぬ。母親の食糧不足の爲に乳が出なくなります。しかも乳の不良、不足を補ふ爲の乳牛や何かは皆食糧の爲に屠殺され、或は是等の動物迄も飼料不足で飼ひ難くなつてゐる。それで戦争中に生れた乳呑子は、戦争済んでから十年経つても當時のことが影響して榮養不良になつて居つて、如何にして之を一人前の人間に育て上げるかと云ふことが、ドイツの醫學界、衛生界の一つの重大な問題であつた。斯う云ふことだけを考へても、如何に戦争と云ふものが悲惨であつたかを御諒解になることが出来ると思ふ。ドイツばかりではない。イギリス、フランス又言ふ迄もない。其の悲惨はドイツに勝るとも決して劣らない。さう云ふやうな事情であつたのでありますから、それだけの實例でもう詳しく申上げないでも御想像がつくと思ふ。

それで戦争は極力嫌なのである。英佛側に於ても出来るだけ戦争はしたくない。是はもう國民全部の心なのである。それで一昨年九月ミュンヘン會議に於て、イギリスのチェンバレンはドイツのゾデーテン併合を承認して歸つて來た。日本人の頭から言へばイギリスのあの屈辱外交、何の顔あつてチェンバレンは故國の國民に會うのかと思ふのに、なんぞ知らん、チェンバレンがロンドンに歸つて來ると市民は拍手喝采、よく戦争をしないで歸つて來て呉れた。此の大政治家には大いに拍手喝采を贈らうぢやないかと云ふので大喜びで、大拍手、大喝采である。それ程戦争が嫌なのである。又ドイツの方でも同じで、昨年八月二十三日にリツベントロツプがモスコウに飛んで行つて、ソヴィエトとドイツとの不侵略協定が結ばれたが、ドイツの國民は實に呆氣に取られた。つい此の間迄は我々の敵ソヴィエト、人道の敵はロシアであると、始終ヒトラーから教はつて居つたのに、それと手を握つて不侵略條約を結んだのではどうなるであらうと云ふので、民衆は非常に不安な氣持で例の廣場に集つて來た。其の時いつも政府の御用を承る擴聲器が我鳴り出した。どう云ふことを言つたかと云ふと、今やポーランド問題を圍つて非常に時局は重大である。此の儘行くとしたら必ず英佛とは一戦しなければならぬが、我がヒトラー總統はそこを考

へてロシアと手を握つたのである。ロシアとドイツが手を握れば戦を避けることが出来る。此の方法を我々の大統領ヒトラーが執つたのだと怒鳴り出すと、たつた今迄呆氣に取られて爲す所を知らなかつた國民は一變して、ヒトラー萬歳、拍手喝采、戦を避ける爲にソヴィエトと手を握るならば、それは有難いと云ふので、不安が直ちに喝采に變つて來た。それを見ても彼等が如何に戦を嫌がつて居るか分る。已むを得ず戦つたけれども、現在でも如何に戦を嫌がつて居るか云ふことが能く分る。此の心理を知らなければ今日の時局は分らぬ。戦争と言ひながら少しも戦争をしないではないか。脇から見てを つても齒痒いと言つてゐるが、ヨーロッパ人の心理が斯の如く戦争を嫌がつて居る。犠牲を拂ふやうなことをやつたならば、一遍で勝を収めることが出来れば兎も角、一遍ではむづかしく、續いてやると云ふ時には、民心は必ず其の政府から離れて、そんなに犠牲を拂ふことは眞つ平御免を蒙ると國民が言ひ度くなるのである。そこで政府は多數の國民に犠牲者を出すやうな戦争は爲し得ないと云ふことになる。是が今日の状態である。

そこで人命の犠牲を成るべく生じない經濟戦争である、外交戦争である、宣傳の戦争であると云ふ。又世間は之を稱して神經戦争とも云ふ。敵國民の神經を過敏ならしめ、衰弱せしめて、さうして自國の勝利に導びかると云ふ神經戦争である。さう云ふのが歐洲の状態であります。だから兩者の面目さへ立てば直ちに平和に歸る道は非常に多い。そこで世界を見渡すと、一方にアメリカのルーズベルトあり一方にローマ法皇あつて、此の二人が互ひに書面を取交して、何時平和に歸することが出来やうか相談をして居る。そこにムツソリーニが一枚加はれば役者が揃ふのですが、此の三人が何時がよいかと時機を見て居ると云ふのが今日の状態でありますから、さう長くならないで平和が恢復されるであらうと云ふ見方が相當に多いことも、是も亦當然と言つて宜しからうと思ふのであります。

支那とソ聯

又かう云ふ息づまるやうな經濟戦争、神經戦争が相當續くと、今度はそれにゐたゞまれず、ある程度武力戦に移るかも知れぬが、それも亦寧ろ平和恢復の端緒となるかも知れぬ。かう云ふ見方が相當に多いのであります。さうして平和が來れば國際會議、其の國際會議に東洋の問題をも俎上に上げやうと支那が努力するに定つてゐる。其の場合になつて、いやヨーロッパのことは國

際會議でおやりなさい。こつちは關係がないと云ふことを日本の代表者は言ふに定つてをります。が、其の場合に其の代表の政治家の言ふことがどの位の程度に於て通るか、通らぬかと云ふことは、決して其の政治家個人の強さではない。其の土臺を爲す我が國力がどの位に消耗されて來たかと云ふことを觀る歐米各國の人々の感ずる程度に依つて通るか通らないかゞ決せられる。日本の生産力擴充が十分出來た。日本の軍需資材が相當ある。軍備の貯蓄は十分に出來てゐると云ふならば、日本の言ひ分は通るであらうし、日本の國力が段々消耗されて軍需資材はなくなつてゐる、餘力はない。斯う云ふことならば日本の言ひ分は通らぬであらう。そこで我々の總力戦と云ふのは、其處を目標としての戦であると云ふことも、考へて置かなければならぬのであります。

若しまた一部の人々の考へるやうに、ヨーロッパ戦争が非常に長期に、三年五年と續くならば是は又ソヴィエト・ロシアの思ふ壺であります。相互に有力の者が鬭ふことは、双方とも疲弊して革命が起ると云ふ、世界赤化の第一歩であると云ふので、ソヴィエト・ロシアの思ふ壺であります。ロシアがドイツと手を握らなければ、ヒトラーは如何に鼻つ端が強くとも、英佛を向ふに廻して戦争することは出來ない。ドイツがポーランドに侵入しなければ英佛はドイツと戦端は開

かないであらう。そこでヒトラーと手を握れば、ドイツはポーランドに進出する。さうすれば英佛と戦を始めざるを得ない。即ち英佛とドイツと戦はす爲にロシアはドイツと提携を始めたと云ふことを言ふ人もあるが、是は當つてゐるかゝる分らないが、さう云ふこともある。歐洲を赤化し得たロシアの世界革命の手は次に東洋に臨んで來るであらう。日本は敢然として之と武力的にも、又思想的にも鬭はなければならぬ。これは確かに一つの重大なる難局であると云ふことを顧慮しなければならぬ。ヨーロッパ戦争が長く續けば日本の爲に宜いと簡単に考へて居るのは淺見の譏を免れないだらうと思はれるのである。そこで他力本願で、ヨーロッパ戦争を材料として何とか切抜けようと云ふことは吝ち臭い。自分達で蒔いた種なんだから、アジアの悲劇はアジアで解決して行くより仕様がなない。ヨーロッパ戦争はどうならうとも、利用出来るものは利用するが、結局は獨力で此の事變を處理して行くことを我々國民は十分覺悟して掛らねばならぬと思ひます。汪精衛氏の支那の中央政權、これが出來ればもう事變は片付くのだと思ふ人があゝるかも知れませぬが、これは全く一つの段階で、我が國としてはどうしても一つの中央政權を支持するに作つて、之を支持、援護して行かなければならぬことは言ふ迄もない。日本の行き方として

はそれより外にない。然しそれをやつたからと云つて直ちに撤兵が出来るとか、或は經濟合作が非常に順調に行つて、北支中支の開發が十分に出来ると思ふ樂觀は禁物であります。なか／＼容易でないと思ふことを覺悟しながら、これを支持し、援護して行かなければならぬ。さう云ふ譯で今日の時局の真相は決して簡単な樂觀を許さないのであります。

支那事變の現段階

そこで今日の事變の現段階はどう云ふ風になつてをるかと思つて、私はこの事變を前期と後期に分つことが出来るであらうと思ふ。七月七日の蘆溝橋の事變發生以來、一昨年暮武漢三鎮が陥落し、廣東が陥落した、其の時迄は事變の前期。昨年一月以來今日に到り、今日より今日以後に到る迄を事變後期と稱して宜からうと思ふ。此の事變前期と事變後期は何處に差があるかと申しますと、事變前期に於いては、武力の戦に依つて此の事變は解決し得るものだと思つて居つた時期であります。所が事變後期になりますと、武力の戦だけでは此の事變は解決が出来ないと云ふことが分つた。武力の戦に於ては我が忠勇なる將士の奮闘に依つて常に勝ち通して居る

勝ち通して居るけれども事變は未だ解決が出来ない見込さへつかぬ。戦場の闘だけではどうにもならぬと云ふのが事變後期で、是が今日の段階であります。そこで事變前期に於ては、前線に立つて事變を處理してくれる者は忠勇なる我が將士である。銃後の國民は銃後を固めて、出征軍人を中心から感謝して送り、其の家族の人達をして後顧の憂をなからしめるやうに努める。傷病の人が出るならば心から慰めて差上げる。又戦死者が出るならば、其の御家族が困らないやうに一生懸命に見てあげる。所謂銃後の固めを十分にやれば責任は盡して居る。事變の處理は戦場に於ける武力の戦に依つて決する。斯う思つて居つた。所が事變が後期になれば勿論戦場に於ける闘もなくなつた譯ではない。殊に出征軍人の勞苦に到つては、或は以前よりも數十倍して来たかも知れない。又國民としては今申した銃後の勤めに一層いそしまなければならぬことは勿論であります。それだけでは事變の處理は出来ない。謂はば總力戦、經濟戦でありますから、戦場が大陸から我々の身邊に移動して来た。我々の家庭が戦場である。我々の職場が戦場であると云ふことはつきり認識せざるを得なくなつて来たのである。そこで戦場の戦に於ては陸海軍手を携へて努力するが如く、我々も國內の戦場に於ては、一方生産部門の闘ひ、一方には消費部門の闘ひ、生

産部門に於ては如何に勞力、資源を供給するか、或は災害防除、或は能率増進、是等の生産部門の闘に於て、軍需製品を始めとして、或は外貨を獲得する爲め輸出産業、或は國民の生活を安定せしむる爲の民需産業、それ等に對する生産方面の闘ひが、眞剣に皆闘はれなければならぬ。又消費部門の戦としては、詳しく云ふ必要はないと思ふが、第一に消費節約である。之は宣傳だけは相當に行はれてゐるやうだが、實際はまだ徹底してゐない恨みが多分にある。もつと本氣でやらねばならぬ。第二に廢品回収である。之もまた尙ほ餘地が少くないと思はるゝ。そして第三には貯蓄の奨励である。自力で戦費を賄ふの方途は、一に國民の貯蓄である。もつと眞剣にならねばならぬ。國民の側から見れば、大體以上の三點であるが、政府の側から云へば、物價の抑制、配給の圓滑、必需品の増産等種々の重要政策がある。之れ等各般の消費部門の戦が最もよく行はれなければならぬ。

かくして我等の生産と消費、職場と家庭とが、事變解決の成否を決する第一線の戰場となつて來たのである。

此の現在の段階が段々深刻化して、さうして米が足りない。マツチが足りない。農村の地下足袋がない。綿製品がない。漁村に行けば發動機船に使ふ石油がない。工場街に行けば工業の原料の資材がない。電力がない。到る所に缺乏を感じてゐる。さうして國民の經濟が不安になり、物價は騰貴して來る。不安は益々増加して來る。斯う云ふ状態が今迄日本は恵まれて困つたことがないから非常に困つたことのやうに思つて悲鳴を上げる人や不平を言ふ人が多いが、併しヨーロッパの先程申上げたやうなことに較べれば、そんなことは何でもない。此の間も支那から歸つて來た人の話を聴きましたが、日本の内地、支那の日本軍が占領して居る現地、重慶政權管下と較べると、重慶政權管下が一番苦しい。工場も鐵道も何も彼も殆どやつつけられて何も出來ない。次は日本軍占領下の現地である。北京でも青島でも日本人街は皆切符制度である。一月に一斗とか言つて居つたのが八升だと云ふので苦んで居ると云ふ切符制度である。日本の内地は實際に苦しさが一番少いのでありますが、不平は何處が多いかと云ふと、内地が一番多く、現地が之に次ぎ、重慶政權下の支那人は黙々として苦難に耐えて居ると云ふやうなことを言つて居るのであります。是等も御同様として大いに考へねばならぬことであると思ひます。

そこで我々は今所謂生産部門の闘ひと、消費部門の闘ひに最善を盡して、所謂長期建設、北支

なり中支の經濟建設をやつて、成る程日本は資材が少い、併し現地に於て是程澤山資材があるではないか。それを開發して行けば少しも困らない。さうして東亞新秩序の建設をして、此のアジアの大悲劇を再びすることのないやうな、本當に兄弟仲よくして行くべき建設をやつて行くので、少しも困ることはないではないかと云ふことを、世界に向つて言つてやらうとして努力して居るのが今日の状況であります。

事變克服の根本條件

そこで我々の目標と云ふものは、第一段には此の事變を克服すること、第二段は東亞新秩序の建設と云ふ大國策を完成すること。當面の問題と究極の問題、二つの問題が我々の目標として與へられて居る。嫌でも應でも何としても此の二つの目的は達成して行かなければならぬ。そこで、此處から先づ大國民運動に關係して來るのでありますが、此の事變處理の爲に、或は又此の東亞新秩序の建設の爲には、軍事當局者の立派な軍略、立派な戰鬪方法の必要なこと、政治、外交が本當によく行はれなければならぬこと、又經濟財政の方策が本當に懸念に考案されて圓滑に

運用されて行かねばならぬことと言ふ迄もないのであります。是等のことには、それ／＼の局に當る人が最善を盡さなければならぬ。併しそれだけで、東亞新秩序の建設は本當に出來上るのかと言ふと、さうは樂觀出來ない現状にあると私は思ふ。あの手、この手、政治、外交、經濟のあの手此の手で成功すると云ふやうな、そんな生ま優しい事件ではない。勿論政治、外交のあの手この手も十分吟味されなければならぬ。そして懸念に行はれなければならぬことは言ふ迄もないのでありますけれども、もつとそれよりも根本的本質的に、此の事變を乗り切り得るや否や、東亞新秩序の建設を達成し得るや否やを決定する條件が別にある。それは何かと云ふと、我が大和民族の民族としての資質、國民としての性格が、此の大事業の成功に果して堪へ得るか否か、値するか否か、これがどうしても根本の條件であると私は考へる。東亞の新秩序の建設と云ふことは、歴史の大轉換で、非常な大事業であります。この歴史の大轉換を三年や五年でやり遂げられると思ふのはとんでもない間違である。それは設計をする青寫眞を撮る位のこととは三年か五年でやらなければならぬが、本當にこの大事業をやるには三十年、五十年、百年の長い年月を要するのであります。其の間に本當に東亞新秩序の建設が出来るか出来ないかと云ふことは國

民の資質國民の性格、是が本當にそれを爲すことに値するかどうかと云ふことが、どうしても根本問題として横はつて居るのであります。

要するに、三年五年のことは設計圖作製の時代で、本當に出來上るのは三十年、五十年後でありますから、今から努力しても決して遅しとしないのであります。

一、國民の生活力

少し具體的の問題に入つて見たいと思ふのでありますが、私が民族の資質の問題と申上げて居るのは、第一には國民の生活力の問題、生きて行く力、是はどうしても必要だと思ひます。我々は歴史を讀みまして、實に華やかな文化を作つた國があることを知ります。其の古代文化の華やかさに驚く一方には又力に依つて世界を席捲して、實に強大なる世界國家を建設した事實がある。其の華やかな文化、強大な國家が僅かに二百年、三百年で歴史の世界から影を没してしまふ。バビロン、アツシリア、ギリシヤ、ローマ、常に我々は其の歴史を讀んで其の強大さ、華やかさに驚くのでありますけれども、又其の何頁か先を見ると何もなくなつて全く影を没してしまふ。是

は何故かと云ふと、一時の華やかさの爲に國民の心も體も蝕ばまれてしまひ、困苦缺乏には堪へられなくなつて、遂には次の野蠻人に取つて代られる。さう云ふ歴史を我々は始終見て居るのである。詰り生活力が劣弱化すると其の國家民族は直ぐ衰へてしまふ。それで我が日本は一時の華やかさ、一時の強大國家、さう云ふことを狙つてはいかぬ。生活の基礎が劣弱化しては斷じてなりませぬ。所が最近色々の統計を見ますと、日本國民殊に青少年の體位が下降しつゝある。

農村や學生層に於て此の體位が下降しつゝあると云ふことは、正に一大痛恨事であります。さうして更に大和民族の繁殖率も、是は事變で若い者が戦争に行つて居るからと言つてしまへばそれ迄であります。統計を少し嚴重に検討して見ると、事變が直接の原因ではない。何となく日本人の繁殖率に一つの曲り角が來たのではないかと思はれる節があるのであります。さうして今日の狀況をだん／＼見て見ますと、農村から青壯年がだん／＼都會に行つてしまつて、農村は女と年寄だけになつてしまふ。だから若い時には村の生活をしたことのない人が中年になつて百姓となる。さう云ふ人々に依つて日本の農村が占められた次のゼネレーションを考へる時、日本の農村と云ふものは如何に力弱きものになつて居るだらうか。而して日本の社會の傳統を維持する

力、日本の社會を背負つて持つて行く力、ねばりと底力、是が非常に薄弱になりはしないかと云ふことを恐れざるを得ない。さうして都會に澤山集つて來た少年工、青年工、或は婦人の勞働者勤人、役人と云ふやうな人、さう云ふ人達の健康を増進する爲に、或は又其の生活を健全ならしむる爲に必要な色々な教養を施す手段、色々な國民をして懦弱ならしむる原因となるやうなことから避ける手段施設があるかどうかと云ふと、是亦極めて少いと云はざるを得ない。そこで色々なさう云ふことから、日本の民族の生活力と云ふのが段々劣弱化する虞れがあるのではないか。斯う云ふ心配がある。

其の上に東亞の新秩序の建設をしなければならぬ其の相手方である支那民族が、如何に強靱無比な生活力の所有者であるか、それは御承知であらうと思ふ。支那の民族を見ると、度々他の民族に襲はれて居る。さうして此の上ないと云ふやうな悪政に見舞はれて居るが、その悪い政治も如何ともすることの出来ない民族、天災地變も如何ともすることの出来ない民族、それ程困苦缺乏に堪へ得る強靱な生活力を有する民族で、さうしてそれが政治の如何に拘らず生き抜いて行くことと云ふ力を持つて居るのである。然るに我が大和民族は餘りに恵まれ過ぎて居る。四季それ／＼

に趣のある風光、其の中に村の傳統としての美はしき風俗習慣、是が又實に濃やかである。さう云ふ中に育つた大和民族と、荒漠たる大陸におつぼり出されて、天地の間に我一人の生物茲にありと云ふやうな勢で生きて行くと云ふ、何と云ふか投げ出された生活をして行く支那民族、さう云ふことを考へる時、我々はまだ／＼修鍊しなければならぬと云ふことを痛切に感ずるのであります。東亞新秩序の建設と言ひ、互助連環と言ひ、共存共榮と言ふが、其の前提としては、支那民族と生きて行くと云ふことが必要である。併し斯う生活力の根柢に於て相違があれば、遂には壓倒されてしまひはせぬか。國家の權力が之を支配する間は、聯隊旗の脇にくつ着いて居る間は宜しいが、併しながら何時かは撤兵もしなければならぬ。國家の權力も何時迄もさうはいかない。國家の權力が直ちに擁護しない。さうして大陸の荒漠たる所に支那民族と共に生活して行く時代になつた時、果してどう云ふ結果を生ずるか。此處にも本當に大國民としての底力が必要である。

それから又次に問題となるのは文化力の問題である。日本の文化力が實際に支那の民族から尊重され、成る程日本民族の文化に依つて支那の大陸が開發されるのだと云ふことを心から納得す

るに至らなければ、東亞新秩序の建設は本當に出来上らないだらうと思ふ。所で支那民族はどう考へて居るか云ふと、アジアの文化はこつちが本場で日本は出店だと考へて居る。ヨーロッパの文化はヨーロッパこそ本家で日本は矢張り出店である。その出店に教へて貰ふ必要はない。ヨーロッパの文化ならば日本に教はらなくてもヨーロッパから直かに教はると斯う云ふ。だが亞細亞的の文化にしても、成る程四千年以前の昔はさうだつたけれども、之を培ふこと、洗鍊することを忘れた。然るに、日本の文化は十分に是が洗鍊され、培養されて、立派な花を開き實を結んで居る。又ヨーロッパの文化は源は成る程ヨーロッパであらうけれども、之を咀嚼し、味つて、アジア人の生活と調和するやうにしたのは日本である。斯う云ふことを理窟でなく、議論でなく事實の上で、彼等をしてなるほどさうだと納得せしむるに至らなければ、東亞新秩序の建設は出来難いことだと私は思ふ。従つて東亞新秩序の建設の第一線に立つと云ふやうな人は眞にさういつた氣持がなければならぬが、さういつた人達ばかりではない。現代の日本文化を高めると云ふことに於ては、有らゆる學校に於て勉強して居る悉くの青年が東亞新秩序の建設の第一線に立つて居ると言つても宜しい。學術ばかりではない、日本人の生活技術に於て、或は事業經營の能力

に於て、或は道徳力に於て、さう云ふことが皆文化力の源泉になることであると思ふ。支那民族は日本民族を以て恐ろしい民族であると思つて居る。更に嫌な民族だと思つて居るらしい。之を眞に信賴に値する民族だと云ふことを、彼等をして心から、思はしめるやうに至らなければ、東亞新秩序の建設などは思ひも寄らないのであります。かう云ふ文化力の問題が果してそこまで行つてゐるか何うか、こゝにも大きな問題が横つて居るのであります。

まだ、日本それ自身が常に模倣追隨で自主創造が出来ない。さうかと思ふと近頃は歐米模倣はいかぬと云ふやうなことで、頻りに自主創造が説かれますけれども、是が又一つの褊狹な態度となつてしまつて、さうして世界への眼を閉ぢて獨善的のものを以て本當の創造研究だと誤認すると云ふやうな傾向すらないことはない。勿論我が民族の素質と云ふやうなことを考へると、是は決して劣つて居やしない。嘗て空中窒素の固定に成功して世界的大學者の盛名を持つて居るフリッツ・ハーバーが日本に来て、日本を研究してから歸つてドイツの新聞記者に話した結果に依ると、今迄世界の文化はドイツを中心とした一つの圓であると思つた。所が將來はドイツと日本と二つの中心を持つた一つの楕圓になるかも知れぬ。學問の將來として日本は恐るべき素質を持

つて居ると云ふことを話して居るのであります。此のフリッツ・ハーバーが何處を見て歸つたか知れませぬが、先づ我々は其の素質に於て不十分であると云ふことは斷じてないと思ふ。どこ迄も文化力の向上發展と云ふことにも努力して行つて見たいと思ふ。

二、國民の性格

其の次は國民性格の問題を一つ取上げて見たい。我が國民性格の中に實に驚くべき長所があることは、是は言ふ迄もない。其の驚くべき長所は、今度の事變を通じて最もよく現はれて居るのであります。戦線の將士の行動に實によく現はれて居ります。忠勇義烈の精神がそれである。又銃後の國民の上によく現はれて居ります。盡忠奉公、國家の爲、陛下の御爲ならば身命を獻げて悔ひないと云ふことは、日本國民の此の上もない大長所であると思ふのであります。是あればこそ光輝ある二千六百年の愉快なる歴史を作り上げて來たのである。今後も天壤と共に極まりなき國家に育て上げて行くのは、是あるが爲であると思ひます。所謂皇國精神の精華である。此の光輝ある精華は何處迄も維持して行かなければならぬ。又、或は自然に親しむとか、簡素を尊ぶ

とか、或は寡慾恬淡、近頃はさうは行かないやうな状況もありますが、或は情誼に殉じて利害を超越することが出来るとか、色々の長所を持つて居ると思ふ。是等の長所も亦出来るだけ之を養ひ育てて行かなければならぬことは云ふまでもないのであります。それと共に他の一面に於て非常に又大きな短所を持つて居ることを忘れてはならぬのであります。此の國民的短所には色々のものがあると思ふのであります。此の事變の現段階に最も密接な關係をもつたものから申上げて見ますと、日本國民の性質は起ち上りの突破力は實に素晴らしいのであります。併しながら同時に之に伴ふて何處迄も粘つて行く堅忍持久の力がどうも足りないと言はれて居ります。日本が國際競争の相手として考へなければならぬ支那の民族は起上る突破力の遅いことは言ふ迄もなく相手にならない。併しながら粘る力、是は向ふの長所と云はねばならぬ。長期建設と云ふ、日本人は三年か五年と思つて居る人が多い。口では何十年掛るなど言つても、三年五年したらどうかなると思つて居る人が多い。支那人の長期建設は三十年、五十年と云ふ。算盤の桁が一つ違ふ。呑氣と言へば呑氣だがそれ程性格が違ふ。又ソヴィエトにしる英國人にしる起ち上りの突破力に於て我が國に劣つてゐるが、何處までも粘つて行く力となると向ふの方が長所と思はれる。

此の間上海に於てアメリカ人の宣教師の大會があつた。アメリカ人が支那に宣教師として行つて居る者が七千人位あるが、六七百人の者が上海に集つて來た。其の集つて來た者の平均年齢を調べたものに依ると七十歳前後の老人が多い。さうして支那に於ける滞在年數が三十年四十年が多いと云ふのであるから、支那で生れたと云ふ者も實に多い。さう云ふ實に長い目で見なければならぬやうな努力をアメリカ人は支那の地に於て續けて居る。所が日本人の支那に於ける努力は何か少しやると、直ぐそれを宣傳して見たがつたり、人に認められて貰ひたがつたり功名手柄を直ぐ勘定に入れたがる。三十年五十年、或は一代二代を通じて、是は自分の使命であると思つて仕事に本當に没頭し切る日本人は非常に少いと思はれるのであります。如何にも堅忍持久の力が足りない。所では日本人本來の固有の精神かと云ふとさうではないと思ふ。明治以來の産物であると思ふ。明治になつて致々として歐米の文化に追付く爲に國民全體が駈足で勉強した。教育にしる、産業にしる、總てが駈足で歐米に追付かなければならぬと云ふのであつた。そこで敏活とか緊張とか云ふ精神は養はれたけれども、一面に於て根強く何處迄も頑張つて行くと云ふ底力が乏しくなつて行つたのではないか。昔の日本人はさうではなかつたと思ふ。福岡縣に宗像神社

と云ふ官幣大社がありますが、昔は神佛混淆でそこにも坊さんがゐて、色定法師と云ふ人がゐた。八十歳まで生きて居つた人で頼朝時代に盛んに活躍した人です。此の人は二十七歳の時から一切經を寫し始めて七十歳で終つた。其の間四十二年五千三百卷を寫した。一年に百二十卷を寫したのでは五千百卷餘で、五千三百卷にはならないが、それにしても月に十卷、三日に一卷づつお經を寫して行く。此の勘定で毎日々々お經を寫して四十二年間續けて行くと云ふことは、容易なことではありませぬ。傳へられる所に依ると板を首から吊して、旅行する時は後ろにやり、松の木に腰掛けても直ぐに板の上で寫すと云ふ工合であつた。又此の色定法師の友達と云ふのが偉くて、あの色定法師に紙や筆の心配を掛けてはいかぬ、紙や筆は皆俺達が心配してやらうと云ふので、鼓舞激勵してくれたと云ひますが、今日興聖寺と云ふお寺があつて、其處に四千何巻か残つてをります。惜い哉大洪水があつて一部は流されてしまつたさうであります。さう云ふものを見ても我々は實に感激せざるを得ない。昔はさう云ふ人が居つたが、近頃の人は皆三日坊主になつてしまつて、何うも粘りが足らない。

さうして更に苦難を忍ぶ、我慢すると云ふ堅忍持久の堅忍に當るのであります。是が矢張り

足りない。直ぐ愚痴を並べ、直ぐ不平不満を言ふ。先程言つたやうに支那重慶政權下の人々、我が軍管下の現地の人々、内地の人々、不平の言ひ方が實情に較べて逆になつて居ると云ふことを申上げたが、全く内地の状況などは前のヨーロッパ戦争に比較すれば、お話にならぬ程軽いことである。支那の格言に、乏しきを憂へず、等しからざるを憂ふる、と云ふ意味の言葉があります。が、是は政治家の座右の銘としては立派ですが、一般國民が他と同じ不自由でなければならぬ、他より餘計不自由をすることは困ると云ふならば、是は大變なことで、本當に不自由を同じくすると云ふことは不可能であります。等しからざる者から不平を言ふと云ふ心掛ではいかぬ。國家の爲には人よりも餘計俺が我慢してやらうと云ふ國民が多勢でなければ、其の國家は滅びてしまひます。それで大國民たるものは不自由は餘計やらう、等しからざるを憂ふると云ふのは、政治家は心掛けて貰はなければならぬが、國民の一人一人は等しからざるを願ひ、人より餘計働く、それが國家の爲の御奉公であると云ふことを、國民各位が考へて來なければいけないと思ふ。

次に我が國民の性格として、非常の場合に非常のことを行ふことは得意であります。親孝行をする時でも、親が危篤で明日をも知れぬと云ふ時には夜の目も寝ずに肝膽を砕いてやる。それ程

の親孝行ならば、普段もつと親に安心させて、心配を掛けさせないやうにしさうなものです。散々心配を掛けて居る。非常の場合には宜いが平常はいけない。平常は何でもない人間が戦線に立つて意識が一度昂揚されると云ふと、丸で違つた人間のやうに、人間業とは思へないやうな武勳を立てることは日本人の長所である。けれども平常に於て能率を上げて、毎日毎日の生活に最善を盡すと云ふことはなかくしない。是は日本人の短所である。

更に我々の國內生活、公的生活に關しては色々の缺陷を我々は持つて居ると思ふ。例へば相剋摩擦と言はれる通りに、他人の缺點を指摘して之を攻めることが餘りに強過ぎる。始終人の揚足を取らうとして居る。さうして自己の責任を果すことはどうも疎かだ、人の悪口は言つても自分ではやることが出来ない。政黨は悪い、或は軍部が横暴だ、財政の取り方が悪いと、人のことはかりを言ふ。攻撃する人が面と向つて居ると、流石にさう云ふことは言へませぬが、其の席に代表者を持たない人々が一切の罪惡の責任を負はされてしまふ。そこに政治家が居らなければ一切が政治家の罪、そこに教育家が居らなければ、一切の悪いことは教育家の罪、軍人が居らなかつたならば、一切合財軍人の罪、軍部横暴の罪だと云ふ。皆自分のことを言はないで、人のことを

責め、相剋摩擦、揚足取り、是が今日迄の我々の態度であつたのです。何處迄も協力してやると云ふ協同の力、是が實に乏しいのであります。團體生活をしますと、直ぐ幹部と一般團員との間に、何となく溝が出来て悪口を言ひ合ふ。もう少し何とか反省する途があると思ふが、實に協力すると云ふことが下手です。殊に残念に思ひますのは色々のことで開くあの會議と云ふものは、銘々の知識と經驗を素材として持出して、それを皆寄せ集めて最高の意見を作り上げると云ふことが會議の目的でなければならぬ。或一人々々の意見は、自分の知識、意見の範圍を出ない素材である。それを持ち寄つて、多くの經驗を集め、知識を集めて、取捨して最高の意見を作り上げようと云ふのが會議の目的であるけれども、それが皆論難駁撃、人の攻撃をすれば宜しい、自分の言ふことだけ言つて、人の言ふことは聽かない、甚だしいのは座を立つて居らないと云ふ人が多い。さう云ふことでは地方自治體も何も發達しないのである。皆が協力すると云ふ考へ方が少いと思ふ。此の協力の下手と云ふことは同時に海外發展の大きな障害となつて居る。

又一面には神經質で感情的で、末梢的な小さなことにこだはつて物の本質を見究めることが出來ない。冷靜な態度で寛大に物事を判斷することを煩はしいとして、直ぐ直接行動に趨へてしま

ふ。法規を重んずると云ふことすら段々少くなつて來た。かう云ふやうな事を考へて見ますと、我々の今日迄の公生活に現はれてゐる缺點も少くありません。それが爲に立憲政治も歪められて居る。地方自治も歪められて居る。社會各般の事も本當にいつてゐないのであります。さう云ふことを實に残念に思ふ。更に相互の國際生活に於ける我々國民の性格の缺點を言つて見ますと、外國との交際と云ふ經驗の少いと云ふことが主たる原因と思ひますが、實に國際生活に於ては國民性格の缺陷を暴露することが甚だしい。例へば一つの國家が何等かの方面で業績を擧げたかと思へば、悉く其の國に魅惑され傾倒してしまふ。悪いこと迄それに倣ふやうなことになつて來る英米よしとすれば悉く英米、ドイツよしとすれば悉くドイツ、ナチスでなければ夜も日も明けぬと云ふ有様であります。さうして外交論をすると日本本來の外交論ではない。感情的の好惡に支配されたひいきの議論である。無論他國の感心すべき所に感心し、他國の長所を認識することに吝であつてはならぬが、同時に短所も十分心得て居つて、全面的に魅せられると云ふやうなことがあつてはならぬ。是が開國の當初であるならば已むを得ぬと言はれますが、現在此の強大なる日本になりながら、尙ほ且つ全面的に外國に魅せられてしまふと云ふことは、何と云ふ情け

ないことであらうかと思ふ。さうかと思ふと自分よりも弱い民族、弱い國家となると其の長所をも認めない。短所だけを見て下らない民族であると見隘つて、さうして民族的反感の種を蒔く。或は支那の現地に於て、或は朝鮮、臺灣の植民地に於ても斯う言つた國民性格の缺陷が現はれて、日本國家の大きな目標を害して居ることが極めて尠くないのであります。殊に東亞新秩序の建設が唱へられてゐる支那現地に於て、事變前の排日抗日を拂拭しなければならぬ今日、心なき國民の一部によつて新たな排日抗日の種を蒔きつゝあると云ふことは必ずしも偽りでないと云ふことを聞くに至つては、實にどうして宜いか、残念至極であります。相手が強からうと弱からうと、どうでも宜しい。本當に眞心を以て他民族と堂々として交はつて行くと云ふ、本當の大國民的態度を早く造り上げなければならぬと思ひます。

時代精神の認識

以上のやうなことを稱して大國民的性格の缺如、斯う申して宜いと思ひます。島國日本の長い間の生活に於ては他に妨げられることなく自己の長所を昂揚することが出来た。是は有難いこと

であつた。併し同時に斯の如き島國の蝸牛角上の争に没頭して、精力、感情を浪費し、さうして斯う云ふコセくした人間になつてしまつた。そこで時代に醒めた者が緊禪一番考へなければならぬ。時代の精神が一度はつきり決まれば、それを認識することに依つて、國民全體の努力を集中することが出来るのであります。明治時代が我々に要求したことは歐米先進國に追付けと云ふことであつた。そこで歐米に負けまいとする努力が明治の精神であつた。此の時代精神に依つて我々の先輩は努力して來た。さうして大抵は追付けた。所謂富國強兵が出来上つたのであります。次の時代精神は何であつたか。次の時代は何を要求したか。日本國民は何を次の時代の精神なりと認識したか。そこで今度は其處に盛込む所の社會の内容である。どう云ふやうな社會を建設しなければならぬか、正しき國家の内容を建設しなければならぬかと云ふことが、當然必然的の歴史的の運命であり、次の時代精神は是であると考へた。此の考は決して間違つた考であつたとは私は思はぬけれども、遺憾千萬ながら其の新たな考へ方に對して、横つちよから飛んでもない間違つた道案内が飛出して來て、間違つた道に引張つて行つた。それがマルキシズムで、正しき社會精神を作らうと云ふ精神は實に立派であつたが、正しき國家、社會とは何ぞやと云ふ場合に、

日本古來の精神に反する階級闘争をしなければならぬやうな、人間の本當の靈的要求を無視した誤れるマルキシズムが飛出して來て、若い人達をぐんぐんと引張つて行つた。さうして是は道を間違へたと感じた時にはもう相當の犠牲を拂つてしまつたのであつた。此處に歴史の誤りがあつたのであります。さうして時代はだんぐん轉化して行く。それで今日の時代になつて考へて見ると、成る程、外形の力は歐米に大抵追付いて行つたが、我が國民の底力と云ふか、體力と云ふか、精神力と云ふか、其の方は、まだなか／＼是で十分だとは言へない。小手先きの働きは餘程上手になつたが、本當の底力、體力、性質と云ふものが、まだ眞の大國民とはなつて居ない。成る程國家を正しくしなければならぬ。社會を正しくしなければならぬ。學生で言へば學科の勉強をしなければならぬが、併し體が弱く神經が衰弱して居ては仕方がない。そこで先づ何を措いても體を丈夫にしなければならぬ。精神を確かりしようぢやないか。精神と體の確かりした人物を作り上げて、それからいろいろの勉強をと云ふのが今日の時期であると私は思ふ。それで此の時代には大國民の資質を養ひ、大國民の性格を作り上げると云ふことが、特に東亞新秩序の建設を前にした現時の時代の要求であり、當然時代の精神でなければならぬ。

そこで此の時代の精神を目指して、殊に若い人達が、明治時代の人達が奮闘したやうに、大國民の教養と云ふことに猛然として突起ち上つて貰はなければならぬ。全國の教育者は之を以て使命として貰はなければならぬのであります。學科を教へること、それも必要であるが、同時に此の民族の缺點を建直して、さうして本當に尊嚴無比なる國體に價するだけの偉大なる國民を作り上げる。東亞新秩序の建設と云ふ大國策に相應しい大國民を作り上げる。是が教育者の義務である。それではなければ事變の完遂は出來ないのだから、丁度第一線の將士と同様、此の國策の遂行は我等の双肩にかゝつて居ると云ふことを全國の教育者は認識して、毎日子供に觸れる時、青年に接する時、此の國民の短所を克服して、本當に大國民を作り上げて行くと云ふことに留意して其處を目標にして運動場の一擧手一投足、教室の一言一句、此の大國民の缺點を匡正して行くと云ふことに全國の教育者は努力して戴かねばならぬと思ひます。さうして東亞新秩序の建設は今後三十年五十年掛るのだから、今からさう云ふ若い人達を作つて丁度間に合う結果になると私は考へるのであります。斯う云ふ點に付てどうぞ皆様も御一考を煩はして下さるやうに、お願いして終りと致します。

聖戰の眞義

徹底を期して

長期建設に邁進

國民の覺悟愈よ重大

新國民政府が樹立されて事變の前途に一沫の光明を見出したが、このために國民の一部には事變の解決は目睫に迫つたと、頗る時局の前途を樂觀する傾向がある。然しこれは餘りに近視的な觀察で、新政府の樹立は解決に一步前進したに過ぎないので、むしろ愈よ長期建設戦の段階に入つたといふべきである。即ち抗日殘存勢力は未だ各地に蠢動し、新政府への妨害運動はもちろん、抗日運動に狂奔してゐるので、この

抗日勢力を殲滅し、新政府を磐石の基礎の上にきづきあげなければ、聖戰の目的は貫徹されないのである。時局の前途にはなほ幾多の困難が横たはつてゐるのである。いや時によれば今までより以上の難關に逢着するかもしれないのである。従つてこの際に、長期にわたる苦しみを堪へ忍ぶだけの覺悟を一段と深め、東亞新秩序建設に邁進すべき決意をさらに強固ならしむる必要がある。

軍當局では既にこの長期戦をこなへて、先に利潤統制に關する見解を發表して國民の注意を喚起したが、今度、支那派遣軍司令部では總參謀長板垣征四郎中將の名で「本冊は聖戰の眞義徹底に關し證據を與ふるものなり」のはしがきをした「派遣將兵に告ぐ」と題するパンフレツ

トを全軍に配布して、全將兵に對して聖戰目標を顯示し事變處理完遂の指標を與へ、事變に對する認識を改めて深めしめた。然しこれは單に前線の將兵に對してのみならず、國內同胞の認識にも必要とする建前から發表されたもので、まさに時期に適した試みで、劃期的な文章である。内容は先づ事變の意義を明快にのべ、派遣軍將兵が同時に東亞新秩序の建設戰士たるべきことを示してゐて、(一) 事變發生の根本原因、(二) 交戦の對象は何か、(三) 大御心を拜察せよ、(四) 事變は如何に解決すべきか、(五) 派遣軍將兵は如何に行動すべきか、(六) 交代歸還將兵に告ぐの六項目からなつてゐるが、日支事變發生の根本原因は日支兩民族が東洋人たるの自覺を忘却し、支那が歐米、ソ聯の侵略的對象に

沈淪した事にありと説き、事變に於ける交戦の對象は抗日政權の迷妄打破と歐米、ソ聯の對日敵性の排除にあることを強調し、さらに事變解決の根本觀念を日滿支三國の道義的結合による東亞永久和平の實現におき、そのためには日本は支那を植民地的地位より脱せしめて、支那の民族的國家統一に協力を惜しまないことを力説してゐる。然し特に國內同胞の注目を要するのは「交代歸還將兵に告ぐ」の第六項である。事變下に於ける國民にとつて、これは正しく頂門の一針で、熟讀以て自己を省みる必要がある。第六項目をこゝに拔萃する所以である。

交代歸還將兵に告ぐ

聖戰久しきに互るに従ひ内地に交代歸還する將

兵の言動が日本の國內に與へる影響の如何に強いものがあるかを深く省る必要がある。征戰三年、あらゆる困苦に堪へ彈雨を冒して得た精神的收穫は歸國と共に消滅し、物質萬能の世相に巻きこまれることがあつてはならぬ。戦争に來なかつたものが樂をして金を蓄め、或は高い地位にありついてゐる等の矛盾せる現實を捉へて歸還將兵に呼びかける國體破壊の左翼運動が潜行してゐることも警戒すべきである。戦友を失ひ、部下を殺し、上官を亡した者の考へなければならぬことは、地下の英靈が何を望み、何を期待してゐるかの一事である。皇國日本の姿を、ますます高く世界に顯現し、東洋平和の御詔勅を奉じ、陛下の萬歳を遺言として骨を曝したのである。もし、この英靈を冒瀆するやうな

國內の醜狀、國民の無自覺あらば敢然として起ち、皇軍を扶翼し奉り聖戰の目的貫徹に向つて國內を導くの覺悟を必要とするのは言を俟たない所である。生命を彈雨の危険に曝し、幾度か死線を越えて得た精神的收穫は如何なる物質を以ても購ひ得ない賜である。歸還後物質萬能の世相に敗退することなく、皇國民の精神的中核となつて郷黨を指導する事は生き残つたものの英靈に對する義務である。

歐洲においては昨秋以來第二の大戦状態を呈し、東洋に對する干渉は、そのためやゝ緩和の状态にあるが、利害打算を信條とする歐洲各國が打算のとれない戦争を永續するものと期待してはならない。いつ平和（固より武装平和であるが）状態になるかも豫測出来ない。この秋に

おいて彼等が歐洲に得られなかつたものを東洋に求め、また第三國が連袂して對日干渉を試みることも當然豫期しなければならぬ。

第二、第三の國難が内外兩方面より神國日本へ試練として加へられる事を豫期し、挺身難に赴くの準備を整へ以て、大元帥陛下の信倚に對へ奉ることが十萬の英靈に對する何よりの供養である。

.....

戦後國內事情の發展にとつて、最も大きな關係をもつものは歸還將兵の動向であるといふことは、既に事變勃發當初から有識者によつて指摘せられてきたことであつた。然るに歸還將兵の數も多くなつた今日、この問題は銃後の極めて重要な問題とならんとしてゐる。

例へば國內の物資不足に對する考へに於ても困苦缺乏に堪へ砲煙彈雨をくりぬけて來た歸還將兵と、銃後國民との間にはかなりの懸隔のあることが認められる。かゝる懸隔は恐らく今後各方面に現はれることであらうが、その懸隔をなくしてともに東亞新秩序の建設に邁進すべく努力することが、目下の急務である。然しこれも歸還將兵にくらべて銃後國民の時局に對する心構へが劣つてゐるためで、銃後國民はなほ一層時局認識を深め、困苦缺乏にたへ得るよう生活を強化しなければならぬ。若しも歸還將兵に銃後國民の生活は弛緩してゐると見られる如き部面があつたならば、それこそ重大である。この文書は現下の國民の覺悟を示唆するもの多く、重要な問題を孕んでゐる。

編輯後記

▽事變勃發以來既に第四年目、時局は愈よ深刻の度を深めて來た。しかも、新國民政府成立したといへ、事變處理の完遂はなほ遠慮である。

▽今後如何なる困難を惹起するかもしれないが、聖戰の眞義を顧るとき、我々は總ゆる困難をも克服して、その目的貫徹に邁進しなければならぬ。

▽我々はかゝる際、如何に處すべきか、何をなすべきか、大國民たるの襟度を示すべき時である。

▽田澤先生に「時局と大國民の教養」を論じて戴いた所以である。

本會役員

會長	法學博士男爵 阪谷芳郎
理事	東大教授男爵 穂積重遠
常務理事	小松謙助
理事	社會局長 新居善太郎
理事	實業學務局長 關口勳
理事	東京朝日主筆 緒方竹虎
理事	日清製粉社長 正田貞一郎
理事	大阪毎日會長 高石眞五郎
理事	前文部省局長 武部欽一
理事	社會教育局長 田中重之
理事	普通學務局長 中野善敦
理事	農學博士 那須芳皓
理事	伯 爵 二荒芳徳
理事	理學博士 藤原咲平
理事	衆議院議員 牧野良三
理事	三菱社常務 三好重道
理事	女青團理事長 吉岡彌生
理事	三井報恩會 米山梅吉
理事	第一銀行頭取 明石照男
理事	貴族院議員 岩田宙造

教育パンフレット(第三七六輯)

毎月三回(一日・十日・二十日發行)

定價一冊金十錢(送料共)

年額金三圓(送料共)

昭和十五年五月十五日印刷

昭和十五年五月二十日發行

東京市小石川區白山御殿町百二十七番地

財團法人社會教育協會内

編輯兼發行人 荒木昇

印刷所 大日本印刷株式會社

東京市牛込區榎町七番地

印刷所 榎町工場

發行所

東京市小石川區白山御殿町百二十七番地

財團法人 社會教育協會

振替東京二一八三番

電話小石川(85)八五九番

終

